

2025 年 第 26 回日本の自生アジサイ展

日比谷花壇大船フラワーセンター 5 月 19 日—5 月 25 日

下記内容は鎌倉アジサイ同好会の HP にも一部公開しています。

<https://kamakuraajisai.site/>





金風製パイプの落下事故があった米児童公園の隣。柵を支える上部の金属製パイプも腐食が進んでいる
＝19日、三浦市栄町

禁止
で点検

新設禁止した。児童館の自衛隊変更には腐食が進むと議員が指摘した。佐藤（浩幸）

児童館の自衛隊変更には腐食が進むと議員が指摘した。佐藤（浩幸）

児童館の自衛隊変更には腐食が進むと議員が指摘した。佐藤（浩幸）

日本各地に自生している自然のアジサイを集めた「日本の自生アジサイ展」が25日まで、日比谷公園大船フラワーセンター（鎌倉市岡本）で開催される。午前9時から午後4時30分（最終日は4時）まで。展示会入場は無料だが入園料別途。主催は鎌倉アジサイ同好会。

素朴な美 自生アジサイ

フラワーセンター
25日まで展示

全国で集めた自生アジサイの展示会
＝21日、日比谷公園大船フラワーセンター

森でホタテ2日間夜

三浦市

警察補の時の少年に上るを任された。初だが知識

まじかった。権に苦慮した。速にいた先

鎌倉版

公開：2025年5月16日

XFacebookTwitterBlogger

花の侘び寂び見て触れて

20日から展示会

社会

アジサイを楽しむ「第26回日本の自生アジサイ展」が5月20日（火）から25日（日）まで、大船フラワーセンター（岡本1018）で開催される。午前9時から午後4時30分（最終日は4時）まで。展示会入場は無料だが入園料別途。主催は鎌倉アジサイ同好会。

同センターの第一展示場に約250種類350鉢の自生アジサイが並び、侘び・寂びを感じさせる趣向で演出する。

また、期間中の午前9時からアジサイ苗の販売が行われるほか、午前11時から同会会員が講師となってアジサイの育て方や品種についての無料講習会（雨天中止）も行われる。詳しくは同センター【電話】0467・46・2188へ。

昨年の様子（提供）

堀川義勝さん

「アジサイ楽しんで」

店主との縁で軒先配布

社会

鎌倉アジサイ同好会会員の堀川（きくかわ）義勝さん（82）が、自身で育てたアジサイのポット苗約150個を、5月22日、23日の2日間、大船仲通の時計店コロナ堂の軒先で無料配布した。

当日は、道行く人たちが店頭に飾られたアジサイに引き寄せられるように足を止め、堀川さんはていねいに育て方を説明していた。

軒先配布のきっかけは、堀川さんが大船フラワーセンターで10年ほど前に行ったアジサイ講座。その講座にコロナ堂の北村社長が参加し、2人の交流がスタートした。以来、堀川さんが育てたアジサイをコロナ堂で毎年展示してきた。昨年、初めて苗の無料配布を行い、好評だったことから、今年も実現した。

堀川さんは、「まさかこんなに早くなくなるとは」と予想を上回る反響に驚きを見せつつ、「多くの人にアジサイを楽しんでもらえれば。大事に育ててほしい」と笑顔をのぞかせた。



アジサイの育て方を説明する堀川さん（右）

初夏の里山彩るアジサイ千株 鎌倉・六国見山森林公園で見頃 市民が植栽

アジサイ 自然・花 ボランティア

話題 | 神奈川新聞 | 2025年6月1日(日) 17:32



六国見山森林公園にヤマアジサイ1千本を植えた市民ら＝1日、鎌倉市高野

六国見山森林公園（鎌倉市高野）にヤマアジサイを植栽している市民ボランティアが1日、新たに苗200本を植えた。2019年から植栽始めたアジサイはこれで計千株に。市民の手によって全国から200種以上集められたアジサイの新名所で、かれんな花々が見頃を迎え、初夏の里山を彩っている。

ヤマアジサイは森や沢沿いに自生。園芸種と違って小ぶりで、多様な品種がある。

ヤマアジサイを全国から集めて育てている鎌倉アジサイ同好会が、同園で里山活動をしている北鎌倉湧水ネットワークに苗木を寄付したのをきっかけに、両団体が毎年、散策路脇などに植え、下草刈りなどの世話をしているようになった。

1日の植栽には両団体など約20人が参加。樹齢300年ともいわれるヤマザクラを囲むように苗200本を植えた。6年前に植えた苗も大きく育ってハイキング客の目を楽しませており、今年は6月中旬ごろまで見頃という。



六国見山森林公園にヤマアジサイ1千本を植えた市民ら＝1日、鎌倉市高野



北鎌倉湧水ネットワーク

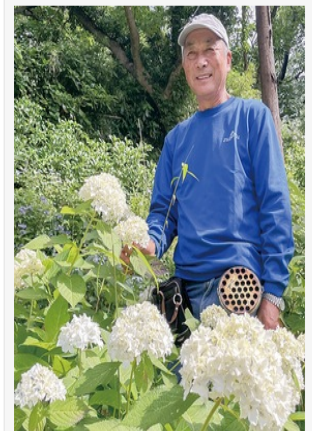
アジサイ節目の千本

六国見山に新名所を

社会

六国見山の里山再生活動を行っている北鎌倉湧水ネットワーク（野口稔代表）が1日、六国見山森林公園の展望台付近にヤマアジサイの苗木200本を植栽した。

2019年から続き、植えた数は今回で累計1000本となった。野口代表は「大規模な植栽は今回でひと区切り。これからは植えたアジサイの育成に力を入れたい」と話す。



過去に植栽したヤマアジサイと野口代表

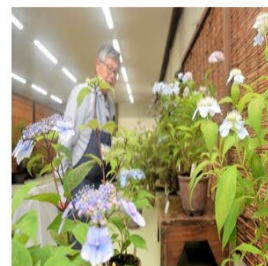
日本に古くから自生するヤマアジサイの生育には、風通し、半日陰、肥沃な土壌などの条件が必要となる。かつては野菜の栽培も行われていたという六国見山は「まさに最適な場所」と野口代表。1日に行われた植栽では、同ネットワークや苗木を寄贈している鎌倉アジサイ同好会のメンバーなど約20人が手作業で苗木を植えた。

春にはヤマザクラが咲き、地元では桜の名所となっている六国見山。「展望台付近の道沿いに並ぶヤマアジサイたちをしっかりと育てて、『北鎌倉千本アジサイ』として新しい名所にしていきたい」。野口代表の目には、すでに満開のアジサイの道が見えている。

村上瀧治 2025年5月20日 11時00分



📧 f X B! ... list 0



開花時期が早いヤマアジサイが見頃の自生アジサイ展＝2025年5月19日午後2時19分、鎌倉市岡本、村上瀧治撮影

国内各地の雑木林などに咲いているアジサイの枝から増やした約300鉢のアジサイを並べた「日本の自生アジサイ展」が19日、鎌倉市岡本の大船フラワーセンターで始まった。25日まで。

主催する鎌倉アジサイ同好会によると、26回目の開催。会員40人が育てた、開花が早いヤマアジサイなど新種を含む約250種を展示する。

石川晃一会長（65）は「品種改良された華やかな西洋アジサイと違う、わびとさびの奥深さを感じてほしい」。川崎市から来た主婦（73）は「何ともいえない素朴さが一番の魅力」といい、スマホで撮影していた。

午前9時～午後4時半。最終日は午後4時まで。午前11時から、増やし方を実演するミニ講習会がある。講習会は予約不要で雨天中止。フラワーセンターの入園料は、学生を除く20歳以上は400円など。



スズキが残業35%減とDX推進を実現した方法とは

Asana



全国で集めた自生アジサイを集めた展示会 = 21日、日比谷花壇大船フラワーセンター

日本各地に自生している自然のアジサイを集めた「日本の自生アジサイ展」が25日まで、日比谷花壇大船フラワーセンター（鎌倉市岡本）で開かれている。華やかに品種改良された園芸品種とは違って、小ぶりながら素朴で多彩な色合いの野生の花々が来場者を楽しませている。

アジサイ愛好者でつくる「鎌倉アジサイ同好会」のメンバーが全国の山や雑木林で生えている野生の品種を集め、鉢植えだけでなく軽石やコケ玉、瓦などに植え付けて丹精を込めて育てた。小さな花びらをチョウに見立て名付けられた「池の蝶」や、小ぶりの手まりのように膨らんだ「満天星」など、かわいい花々が見頃を迎えている。

同好会の前川英吉顧問は「自生アジサイは派手さはないでも楚楚（そそ）として、茶花として和室にも合う。パリエーションが豊かな花々を見てほしい」と呼びかけている。

午前9時～午後4時半（最終日は同4時）。観覧には入園料が必要。アジサイの育て方を学ぶミニ講座も開かれている。（深沢 剛）



全国で集めた自生アジサイを集めた展示会 = 21日、日比谷花壇大船フラワーセンター



全国で集めた自生アジサイを集めた展示会 = 21日、日比谷花壇大船フラワーセンター



ヤマアジサイの苗木を植栽する湧水ネットのメンバーら（2024年6月）



苗木を植栽するための穴掘り作業も終えている（いずれも湧水ネット提供）

鎌倉アジサイ名所へ植栽 市民グループ あす200株 累計1000株

鎌倉市の市民グループ「北鎌倉湧水ネット」が6年前から、同市高野の六国見山森林公園でヤマアジサイの植栽を続けている。今年は6月1日に200株を植える予定で、累積での植栽は1000株になる。湧水ネットは「鎌倉をヤマアジサイの名所に」と願いを込める。

六国見山は、山頂から相模、武蔵、伊豆、上総、下総、安房の6国が望めたところから名付けられ、ハイキングコースとしても人気が高い。湧水ネットは月4回程度、間伐などの作業に精を出している。市道沿い公園の園路は「広い公園の手入れなどをお願いするボランティア団体の一つとして、非常に助かっている」と感謝する。「里山にふさわしい、つましやかなヤマアジサイを眺めながら、ゆっくり歩いて心の安らぎを感じてもらえれば」。1000株の植栽を機に、野口さんらは「北鎌倉千本アジサイ」として、新たな観光名所になることを期待している。

環境問題 体験で学ぶ 赤レンガ倉庫「特別号外」贈呈も



SDGs（持続可能な開発目標）や環境問題を学ぶイベント「グッドプラチンガ」が30日、横浜市中区の日比谷花壇大船フラワーセンターで開かれた。当日は、同センターの「特別号外」が贈呈された。この日訪れた横浜市の主編、岡崎和恵さん（70）は「エコを考えるきっかけになれば」と話していた。

たが、ほぼ100%定着したという。「下草刈りや剪定などしっかり手入れをしてくれれば」と、翌年以降も苗木の寄付を続けることに。湧水ネット代表の野口裕さん（76）は「六国見山は、風通しのよい半日陰の腐葉土というヤマアジサイが育つ条件に恵まれている」と話す。

月間にあわせて行うプロジェクト「Good For the Planet」の一環として、読売新聞社が出版したブックスでは、古紙原料の入った「パルプ」を水で溶いて自分で新しい紙を作る「紙すき体験」や、古新聞紙でのエコバッグ作りなどが楽しめ、来場者の名前と写真が入った「特別PR号外」プレゼントも写真もある。天候によって一部が実施できない場合がある。この日訪れた横浜市の主編、岡崎和恵さん（70）は「エコを考えるきっかけになれば」と話していた。